群教セ	F09 - 01
	平15.217集

温かな人間関係に満ちた学校を目指して

― モデルとなる上級生を育てるピア・サポート活動の導入 ―

特別研修員　金子　由佳里（大間々町立福岡西小学校）

《研究の概要》

本研究は、温かな人間関係に満ちた学校づくりが不登校の予防につながるという考えに基づき、５年生の段階からピア・サポート活動を導入して、下級生のモデルとなる６年生を育てようとする試みである。トレーニングはほっとルームを中心に行い、４・５年生合同の宿泊学習をピア・サポートのスタートの場とすることにより、５年生は昨年の経験や学んだスキルを生かし、４年生の気持ちを考えたサポート活動を行うことができた。

【キーワード：教育相談　ピア・サポート　不登校の予防　人間関係　宿泊学習】

Ⅰ　主題設定の理由

「不登校に関する実態調査」によると、不登校のきっかけは、友人関係・学業不振・教師との関係など学校生活や人間関係に関わるものが多い。不登校への対応は、治療的援助だけでなく、対人関係や集団の中でとらえる開発的援助が重要である。子どもたちが「学校に行くことが楽しい」と感じるような教育活動を推進することが、不登校の予防につながると考える。

本校は、地域との結び付きが強い全校児童62名の小規模校である。そのため、学年を越えて遊んだり、家族ぐるみで付き合ったりするよさがあり、素直で優しい児童が多い。しかし、気心が知れているために甘えやわがままが生じ、相手の気持ちを考えない言動をとる、些細なことで怒ったり落ち込んだりする、自分の考えを適切に表現して伝えるコミュニケーション能力が育ちにくいなどの問題がある。今年度当初の生徒指導会議でも「人とのかかわり方の改善」が最重要課題として挙げられた。また、言われたことは比較的よくするが、自分で考えて行動したり問題を解決することは苦手で、人前や大きい集団になると萎縮する傾向も見られる。

「ほっとルーム」は、人間関係づくりの場・援助指導の場・情報発信の場であるととらえた。このうち、人間関係づくりの機能を拡大し、本校の実態を踏まえて自他肯定感や人間関係能力、問題解決能力を高めるためにピア・サポート活動を導入することにした。

小学校において６年生の果たす役割は大きい。６年生の優しい言行は全校に広がり、彼らが頑張る姿をモデルとして下級生は学び、自分が上級生になったときのイメージをもつ。そこで、５年生後半から自分たちが中心となる学校行事でピア・サポート活動を経験し、自信を持って進級すれば、思いやりにあふれた温かな人間関係が全校に広がり、不登校の予防につながると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究の見通し

５年生の実態をもとに２年間を見通したピア・サポート活動を実践すれば、上級生がモデルとなって温かな心の交流が学校全体に広がり、不登校を予防することができるであろう。

Ⅲ　研究の内容

１　ピア・サポートとは

Peer は同年代の仲間、Support は支援・援助の意味で、カナダの Cole が約 30 年前にプログラムを開発した。子どもたちは困ったことや心配ごとがあったときに友達に相談することが最も多いという事実に基づいている。悩んだり困ったりしている子どもに対して、援助のための訓練を受けた仲間が、学校の教育活動の一環として支援活動を行うチームをつくり、組織的に援助活動を行う。ピア・サポート活動により次のような効果が期待できる。

・　子どもたちの対人関係能力や自己表現能力など、社会に生きる力の不足が改善される。
・　子ども同士、教師と子どもの信頼関係が豊かになる。
・　自己肯定感・有用感が得られ、サポーター自身が成長する。
・　いじめや不登校を防ぐなど、予防的な生徒指導につながる。
・　学校全体として、他者を思いやり支え合う風土ができる。

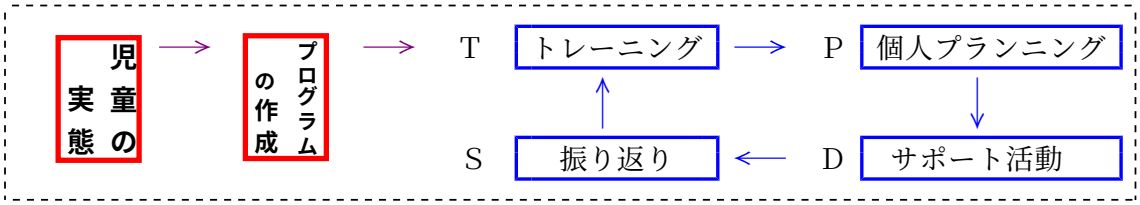

図１　ピア･サポートの学習サイクル　　問題解決的な学習モデルである。

２　モデルとなる上級生を育てるとは

小規模校で、６年時に全員が児童会の本部役員または委員長になるよさを生かしたいが、少人数のため、委員会の常時活動や稲作などの負担が大きく、トレーニング時間の確保は難しい。そのため、５年時10月の宿泊学習を最初の実践の場に選んだ。４･５年生合同で３日間寝起きを共にする宿泊学習は、４年生にとって楽しみな反面、大きな不安も伴う。５年生は、前年の経験や学んだスキルを生かして、準備段階から４年生の不安を取り除き、宿泊学習中の各活動をサポートをすることができる。このようにピア・サポートのイメージがとらえやすいだけでなく、日常を離れた場であることも実践の意欲を高めるのに効果的である。

次に、宿泊学習でのサポートの振り返りを生かして、足りない部分をトレーニングし、２月のお別れ学習発表会の準備や運営にあたる。

６年に進級後は、児童会本部役員や委員長の立場から、下級生に対してサポート活動を行う。希望する児童はカウンセリングのトレーニングを受け、スーパーバイズのもと、「ほっとルーム」で相談活動や学習支援活動を行う。

３　「ほっとルーム」の役割

○　人間関係づくりの場

ピア・サポートのトレーニングを行ったり、活動やトレーニングの記録を残して振り返ったりする。本校の「ほっとルーム」は狭いので、隣の児童会室も「ほっとルーム２」（サポータールーム）として使用する。

○　援助・指導の場

現在不登校の児童はいないが、不登校に限らず、問題を未然に防ぐよう、教師と児童、教師と保護者が気軽に話し合える雰囲気や環境をつくる。

○　情報発信の場

教職員対象にピア・サポートやソーシャルスキルトレーニング（以下ＳＳＴと略す）や構成的グループエンカウンター（以下ＳＧＥと略す）の研修を実施したり、それらに関する書籍や

資料を整えたりする。

４　ピア・サポートを支えるＳＳＴ・ＳＧＥ

ピア・サポートの素地づくりとして、各学級で対人関係能力の習得を重視したＳＳＴや実態に合ったＳＧＥを実践する。ＳＳＴは、生活に必要な社会的なスキルを身に付けることが目的である。ＳＧＥは、活動をとおして自己理解や他者理解を深め、人間関係スキルを学びながら、学級等の人間関係をよりよくすることが目的である。ピア・サポートは、これらで学んだスキルを基礎に、他者を支援するためのトレーニングを受け、仲間を支援する実践をとおして、思いやりや支え合いの心を広めるとともに、サポーター自身の人間的な成長を促すものである。

Ⅳ　研究の方法

１　各学年でのＳＳＴの実践

本校の児童の実態から考えて、ＳＧＥよりもＳＳＴに力を入れ、次のように計画した。

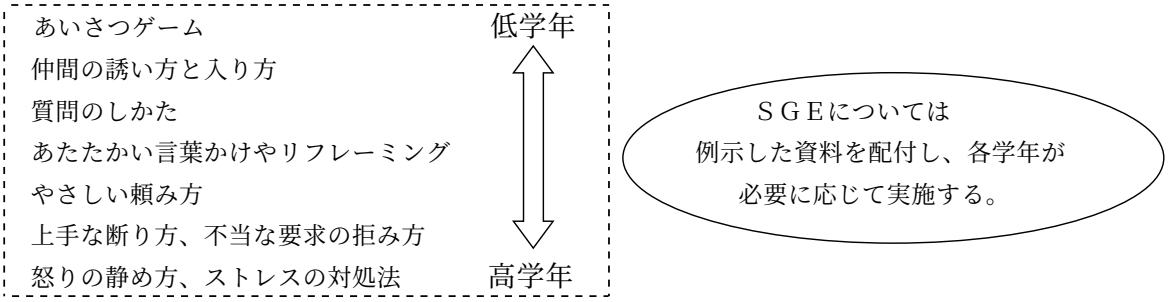

図２　SSTの計画

２　ピア・サポートの実践計画

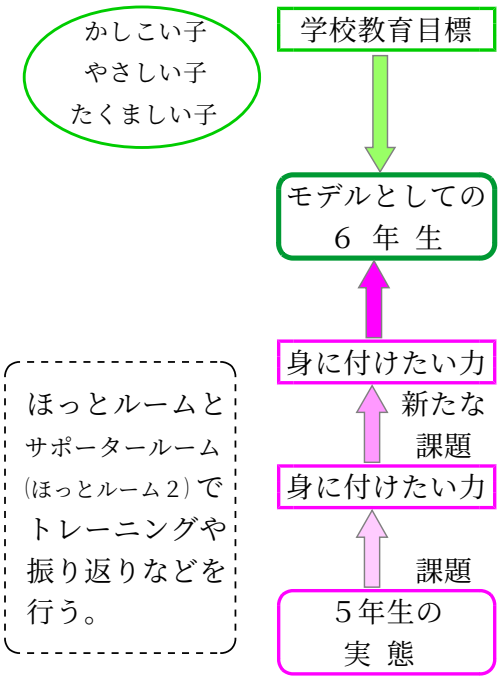

図３　不登校を予防する「ピア・サポートの木」

（1） **児童**（現在の５年生　男子６名・女子３名）**の実態**　　●男子 ○女子 ◎共通

◎　互いの個性を認める姿勢があり、差別やいじめはないと児童が感じている。
◎　発表力がやや弱く、全校集会などになると発言ができなくなりがちである。
◎　リーダーの資質を備えている児童が２～３名いるが、自分から進んで前面には出ない。
◎　ほとんどが放課後の野球・ミニバスに所属し、真剣に取り組んでいる。
●　昨年は、相手の気持ちを考えない強い言葉遣いから、けんかが多かったが、その教訓を生かして、けんかに至らないよう気を付けるようになってきている。
●　手悪さが多く、話を聞く態度や姿勢があまりよくない。
●　早めの行動ができず、面倒なことは後回しにしがちである。
○　真面目でよく働き、下級生に対しても面倒見がよい。

（2） **モデルとしての 6年生像**

・　いじめや差別をせず、思いやりをもって誰とでも仲よくできる児童
・　本部役員や委員長となって、学校をよりよくするために考え、実行する児童
・　優しく下級生の面倒をみて、困ったときには相談にのる児童

（3） **今回のピア･サポートで身に付けたい力**

・　宿泊学習でのピア・サポートをリーダーになる第一歩として位置づけ､意欲の向上を図る。
・　初めての体験であるピア・サポートの導入時におけるイメージの把握を大切にする。
・　「聞く・話す」など、コミュニケーション能力の育成に努める。
・　常に相手（４年生）のことを考えて行動できるようにする。

（4） **宿泊学習におけるピア･サポート**

上記のような実態を踏まえ、宿泊学習を実践（D）の場として、表１のように計画を立てた。これを本校の教育計画の中に組み込んでいく。

表１　宿泊学習におけるピア･サポート計画　（丸数字は第○時。　アルファベットは図１参照）

時期	教科等	活動のテーマ		過程	ねらい・留意点
９月下旬	総合 道徳 学級	ピア・サポートってなあに	①今日からリーダー ②トラストウォーク ③パズルにチャレンジ	T1 導入	リーダーとなる自覚をもち、ピア・サポートのイメージをつかむ。
10月上旬	学級 学級 道徳	上手な聞き方と話し方	④聞き方名人になろう ⑤背中合わせの伝言 ⑥温かい言葉・冷たい言葉	T2 基礎	ロールプレイによって言葉や態度などの大切さに気づき、コミュニケーション能力を高める。
中旬	総合 家庭	４年生に分かりやすく教えよう	⑦宿泊学習は楽しいよ ⑧カレー作りはまかせて	T3 実践	活動内容を自分たちで調べ、４年生に分かりやすく教えられるようにする。
下旬	学級	トラブルの解決	⑨こんなことが起きたら	T4 応用	様々な解決法があることを知り、状況と相手の気持ちに応じた対応がとれるようにする。
10月下旬	総合	個人プランニング	⑩わたしのサポート計画	P	トレーニングで学んだことをもとに、どんなサポートをしたいかを考える。

10月29~31	行事	宿泊学習での実践	⑪実践！宿泊学習ピア・サポート	D	自分のプランを中心に、４年生の気持ちに添った臨機応変なサポートができるようにする。
11月上旬	総合学級	サポート活動の振り返り	⑫わたしのサポート ⑬サポートのまとめ	S	自分のサポートについて振り返った後、クラス全体でよかったことや課題について話し合う。

Ⅴ　実践の概要と考察

１　実践の概要

各過程のねらいに照らしてピア・サポート活動を実践した結果、次のような児童の反応や変容が見られた。

表２　Ｔ₁「ピア・サポートってなあに」の活動と児童の反応や変容　（丸数字は第○時）

T₁	①９月25日「今日からリーダー」	
ねらい	宿泊学習で４年生をサポートすることがリーダーになる第一歩であることに気付き、意欲をもって宿泊学習の準備に当たろうとする。	
	教師の投げかけ	児童の反応
活動①	○みんなは来年、全員が本部役員か委員長になります。今度の宿泊学習で４年生をリードし、学習発表会と卒業式では、在校生の最高学年として、計画と練習を任されます。今日から学校のリーダーになる準備が始まります。 ○去年宿泊学習に行く前の気持ちを、思い出せるだけカードに書いてみましょう。書けたら、種類に分けて黒板に貼ります。 ○４年生はみんなが頼りだから、やさしくサポートしてあげようね。	○「もう宿泊学習の話？１か月も何するん？」で始まった。 ○「なるほど」と真剣な眼差しになった。 ○「できるかな」 ○「楽しみもいっぱいあったけど、不安のカードの方が多い」 ○「今の４年生も同じなのかな」 ○「サポートって何？お助けのこと？」 ○「よし、がんばるぞ」
T₁	②９月29日　トラストウォーク　　③10月２日　パズルにチャレンジ	
ねらい	ピア・サポートのイメージをつかむ。	
活動②	○２人組になり、４つのサポートの仕方を経験する。（後ろから固定する・肩に手をかける・後ろ向きで両手を引っ張る・寄り添って腕を重ねる） ○サポートしたとき、されたときの感想を書く。	
活動③	○３人組で１人２回ずつアルファベットのパズルを解く。（解かないときはサポーター役） ・１回目のサポーター　ばかにする、教えたがる。 ・２回目のサポーター　励ましてほめる、見守って行き詰まったときだけ助言する。 ○サポートしたとき、されたときの感想を発表する。	
反応や変容	②では、サポーター主導の方が恐くないという感想が多かったが、ここでは寄り添うのがよいと断定はせず、いろいろなサポートの仕方があるという程度にとどめた。 ③では、ばかにされると嫌な気持ちになってやる気を失う、ほめられるとうれしい、サポートするとき答えを知っているので、つい教えたくなってしまうなどの感想が出された。②と③の体験を合わせることによって、サポートのイメージがつかめたように思う。	

表３　Ｔ$_2$「上手な聞き方と話し方」の活動と児童の反応や変容

T$_2$	④「聞き方名人になろう」10月６日 ⑤「背中合わせの伝言」　10月９日 ⑥「あたたかい言葉・冷たい言葉」　10月14日
ねらい	ロールプレイをとおして日常の聞き方や話し方を振り返り、相手の気持ちを考えた適切なコミュニケーションがとれるようにする。
活動④	○導入　保健委員の清潔検査日誌から（よく話を聞かないで勝手にしゃべっているところが直せればいいなあって思います。） ○２人組で話す役と聞く役を交代する。 （完全に無視する聞き方・えらそうな聞き方・無関心な聞き方） ○よい聞き方について全体で話し合ってまとめる。 ○２人組に戻りよい聞き方をし、２人でシェアリングする。
活動⑤	○背中合わせで、折り紙を３回折ってできた形を相手に伝える。(両者自由に話ができる) ○折り紙を比べて感想を言う。 ○３つの図形が重なった絵を自分だけが見て、向かい合った相手に伝えて描かせる。 （描く方は言葉は使えないが、向かい合っているので動きや表情は分かる） ○図形を比べて感想を言う。
活動⑥	○言われて嫌な気持ちがする言葉とうれしい言葉をカードにたくさん書く。 ○黒板に書き出された言葉を、黒板に向かって叫ぶ。 ○二人組になって言う。 ○言ったとき、言われたときの気持ちを振り返る。
反応や変容	④の無視する聞き方は、反応がないのでさみしい、冷たい感じがした、話したくなくなった。えらそうな聞き方はすごく嫌だ、むかつく。無関心な聞き方は、ちゃんと聞いているのかなあ、よそ見や手悪さをされるといやだったなどの感想が出た。よい聞き方については、話している人の方を見る・真剣に聞く・手悪さをしない・相づちを打つ・相手がもっと話したくなるような質問をするなどが挙げられた。⑤は、違いが目に見えてはっきり分かるので、楽しみながらも、伝えることの難しさに気付くことができた。上手な説明の仕方の要素も含まれているため「どう説明すればいいのか困った」「どこに何がどのようにあるのかを伝えるのが難しかった」なども出た。「背中合わせで話せるより向かい合わせで話せない方が伝えやすい」という核心に迫る気付きも得られた。⑥では、「心が痛む」というつぶやきがあった。冷たい言葉は、言われる方だけでなく、言う方にもダメージがあることに気付いた。

表４　Ｔ$_3$「４年生に分かりやすく教えよう」の活動と児童の反応や変容

T$_3$	⑦「宿泊学習は楽しいよ」　10月15日 ⑧「カレー作りはまかせて」　10月21日　（学年親子行事）
ねらい	今までのトレーニングを生かし、分かりやすく４年生に活動内容を教えたり、カレー作りでサポートされる側を体験したりすることにより、ピア・サポート実践のイメージをより確かなものにする。
活動⑦	○班で協力して、分かりやすい説明の仕方を考える。 ○今までのトレーニングで学んだことをもとに、教えるときに気を付けることを確認する。 ○自分の班の４年生に、宿泊学習のことを分かりやすく教える。 （活動内容・持ち物や服装・心構え・注意事項など）

活動⑧	○ご飯の炊き方（水の量・火加減と時間）を調べる。 ○カレーの作り方で分からないところを自分の班の大人に聞く。 ○サポートを受けながら、全て自分たちで作る。 ○カレー作りを振り返り、どのようにサポートされるとよかったかを話し合う。
反応や変容	⑦は、「４年生がしっかり話を聞いてくれたのでよかった・分かりやすく説明ができた」と思う者と「４年生の態度や姿勢が悪かった・真剣に聞いてくれなかったと思う」者に分かれた。よい聞き方や話し方、リーダーになる難しさが身をもって分かったようだ。⑧では、４年生に教えられるよう真剣に取り組み「これなら自分たちでできる」と大きな自信を得た。保護者によるサポートにいろいろなタイプがあり、よかった。

表５　T４「トラブルの解決」の活動と児童の反応や変容

T4	⑨「宿泊学習でこんなことが起きたら」　10月20日
ねらい	１つのトラブルに様々な解決法があることを知り、相手の気持ちを第一に考え、状況に応じた対応がとれるようにする。
活動⑨	○４年生が、 〈ア〉ウォークラリーで「足が痛くて、もう歩けない」とうずくまっていたら 〈イ〉起床時間に声を掛けても何も答えず、ふとんをかぶっていたら それぞれどうするかを考えて話し合う。
反応や変容	〈ア〉は、おんぶする、肩をかすなどが多かったが、ずっとはできないという意見が出され、交代でする、先生の所まで行くなどが出た。また、わがままなら助けるとよくないから、がんばれるかを聞いて励ます、少し待って様子を見るなども加えられた。〈イ〉は、ふとんをとる、たたき起こすが圧倒的に多かった。「ふとんから出られない事情は何だろう」と問いかけることによって、単なる怠けではない場合があることに気付いた。「相手の気持ちをいつも考えて行動することが大切だと思った」「このほかにいろいろなことが起きても５年生として頑張ろうと思う」などの感想が出された。

表６　P「個人プランニング」の活動と各人の計画

P	⑩「サポートの計画を立てよう」　10月23日
ねらい	トレーニングで学んだことをもとに、自分の役割や係を中心に、どのようなサポートができるかを考えて計画する。
活動⑩	○４年生の今の気持ちを調査する。 ○どんな場面でサポートしたいか、そのためにはどうしたらよいか、自分のサポート計画を立てる。
各人の計画	４年生が５年生に期待し、楽しみにしていることが分かり、次のような計画を立てた。 ・レク係長としてキャンプファイアーをがんばる。間違ったら助ける。 ・班長として野外炊事を特にがんばる。学んだことを生かし、ケガをさせない。 ・けんかがあったら止める。両方の話を聞く。 ・班長として、４年生に困ったことがないか聞く。いろいろなことを教える。 ・班長として登山やウォークラリーをがんばる。 地図で危ないところを教える。 ・班長なのでみんなをまとめる。ウォークラリーと野外炊事で協力できるようにする。 ・食事係の人が分からなくて不安そうだったら教える。やり方を見せてから、させる。 ・何でも協力できるようにする。４年生に声をかけたり注意をしてあげたりする。 ・食事の用意の時、４年生の様子をしっかり見て、分からないことを教えてあげる。

表７　D「宿泊学習での実践」における活動の様子

D	⑪「実践！宿泊学習ピア・サポート」　10月29・30・31日
ねらい	自分のプランをもとに、４年生の気持ちに添った臨機応変なサポートができる。
各人の活動の様子	教師が見取った各児童の活動の様子 ・レク係長として、ｷｬﾝﾌﾟﾌｧｲｱｰの司会を担当し、４年生を助けながら盛り上げた。 ・野外炊事は自分のことで精一杯だったが、ウォークラリーでメンバーを励ました。 ・自分自身が１回けんかをしてしまった。登山で疲れた４年生の荷物を持ってあげた。 ・トレーニングの学びを生かして４年生に接し、いろいろなことを教えていた。 ・班長として張り切った。登山で遅れた４年生の面倒をずっとみていた。 ・室長、班長として責任感をもち、みんなをまとめようと努力した。 ・炊事の仕方を、４年生に手際よく優しく教えることができた。 ・班長を陰で支え、きめ細かく４年生の面倒をみた。女子の部屋をまとめた。 ・食事係長として４年生をリードし、生き生きと活動していた。

表８　S「サポート活動の振り返り」の活動と児童の反応

S	⑫「わたしのサポート」⑬「サポート活動のまとめ」　11月４日
ねらい	自分のたちのピア・サポートを振り返る。
活動 ⑫ ⑬	○自分のサポート活動をプランに照らして振り返り、シートに書く。 ○友達のサポートの様子やクラスとしての活動を振り返って発表する。 ○４年生からの手紙を受け取って読む。
反応（振り返り）	〔よかったところ〕 ・みんなのことを考え、どの活動も協力できた・４年生にたくさん声をかけることができた・登山やウォークラリーのとき、遅い人にペースを合わせたり、リュックを持ってあげたり、危ないところを教えたりできた・足が痛い人をはげまして、歌を歌いながら歩いた・時々後ろを見ながら遅れている人がいないかチェックして歩いた・室長として「もう寝る時間だよ」と言えた・キャンプファイアーでレク係が劇や司会でもり上げてくれた・食事係で準備や後かたづけを一生けんめいがんばった 〔反省点〕 ・朝の集いに遅れた・カレー作りのとき、もう少し４年生に野菜を切らせてあげればよかった・つまらないことで口げんかした・困ったことがないかよく聞けたが、言葉が強くなってしまった・危険や迷惑を考えてレクを進めるべきだった。

２　実践の考察

これまでは学校の行事などを教師主導で進めがちだったが、今回は児童の意欲を引き出すことから始められ、事前指導も班ごとに５年生が教える形をとったことにより、４・５年ともに意欲が高まり継続することができた。

コミュニケーション能力を高めるトレーニングは児童にとって初めての体験で、ぎこちないところもあったが、「手悪さするな」と百回言うより一回のロールプレイの方が効果があった。その場ではそれほど意見は出なかったが、生活の中で「そんな強く言っちゃだめだ」「そういうことを言わない方がいいよ」など、それまでになかった言葉が聞かれるようになった。

宿泊学習では、山歩きで著しく遅れたり、体調を崩したりする４年生が続出し、トレーニングの学びがそのまま生かされた。「騒ぎ立てない方がいい」と嘔吐した４年生をそっと介抱する姿も見られた。また、全員が班長・室長・係長のいずれかになっていたので、リーダーの自

覚をもつことができ、班長会議では一日をふり返って真剣な話し合いがなされた。
　振り返りで自分が「こういうサポートができた」と自負していたところを４年生から手紙で感謝され、大きな満足感が得られた。相手や周囲から認められることは大切だと思った。
　この実践でリーダーとしての自覚や相手への思いやりの心が育った。時間を守って計画的に行うこと・指示を出すときには、はっきりと分かりやすく話すこと・自分のことだけに夢中にならず、周りに気を配ること・最後の片づけまで責任を持って行うことなどはやや弱いことが分かった。

Ⅵ　まとめと今後の課題

　宿泊学習をリーダーになる第一歩と位置づけ、ピア・サポートの最初のステージとしたことにより、５年生は「４年生を優しくサポートしよう」という共通の目標をもち、意欲的に活動することができた。トレーニングは、目指す６年生像と現在の実態とを比較して選定し、各過程での変容を明らかにして進むようにしたことにより、「聞く・話す」などのコミュニケーション能力が高まり、相手の気持ちを考えて行動できるようになった。
　今後は、宿泊学習での成果と課題を３学期のお別れ学習発表会のピア・サポートに生かし、自信をもって進級できるよう支援していきたい。来年度は、児童会活動を中心に各児童がプランニングし、全職員がピア・サポート活動に参画して、温かい人間関係を学校全体に広げ、不登校を予防していきたい。

〈主な参考文献〉
トレバー　コール 著、バーンズ　亀山　訳　『ピア・サポート実践マニュアル』
川島書店（2002）
中野　武房、日野　宜千、森川　澄男　編著　『学校でのピア・サポートのすべて』
ほんの森出版（2002）
森川　澄男　監修　『すぐ始められるピア・サポート指導案＆シート集』　ほんの森出版（2002）
滝　充　編著　『ピア・サポートではじめる学校づくり　小学校編』　金子書房（2001）
國分　康孝　監修　『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』　図書文化（1999）